

5

次は、お菓子かしをつくっている美奈みなを主人公にして書かれた物語の一部です。文章の表現のくふうについて説明したものととして、もっともふさわしいものをあとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

美奈は悲鳴をあげた。スポンジケーキが焼きあがるはずだったのに、オーブンからでてきたものはまっ黒な炭だったからだ。

美奈は、このごろ日曜日にはお菓子づくりせんねんに専念している。先週はクッキーを焼いた。できあがったものは、みように歯にくっつくクチャクチャしたガムのようなものだった。そのまえの週は、ドーナツをあげた。おいしそうなきつね色にあがったのに、中は空洞くうどうだった。そのまえは、プリンをつくった。ボソボソとしたスポンジみたいだった。

それもこれも、今年のクリスマスには、友だち同士で手作りのお菓子をもちよって、パーティーをすることになったからだ。まったくだれがいいだしたんだろう。わたしではなかった。美奈は、ため息をついた。

(柏葉幸子『大おばさんの不思議なレシピ』による。)

【表現のくふう】

- 1 美奈と友だちとの関係が分かるように、それぞれの性格や考え方を書いている。
- 2 美奈が体験したことを、ほかの登場人物に対して語りかけるように書いている。
- 3 美奈が取り組んだお菓子づくりのことを、つくった順序のとおりおりに書いている。
- 4 美奈がお菓子をつくるたびに失敗してしまう様子を、たとえを使って書いている。